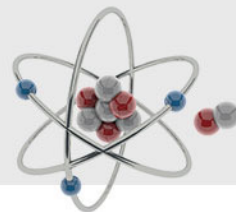




## ネットワーク班：進捗と展望

2022年8月23日 班長会議  
代表：榎原潤 (東洋大学)

# 構成メンバー



## ■ 研究分担者

- 国里 愛彦さん (専修大学)
- 菅原 大地さん (筑波大学)

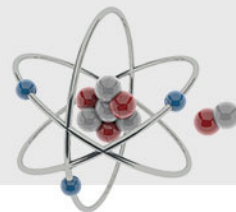
## ■ 研究協力者

- 竹林 由武さん (福島県立医科大学)
- 伊藤 正哉さん (NCNP)

## ■ 研究支援者 (週1, 後期から週1.5)

- 北原 祐理さん (東京大学)

# ネットワーク班のメイン研究



## ■ 心理療法 (UP) の詳細な作用機序を明らかにする

- 下記①～③の順に, 徐々に発展

- 倫理審査済 (B2021-085)
- 解析計画の事前登録完了
- 学会発表エントリー済  
(11月発表予定)

### ① UP研究の質問紙尺度データの解析

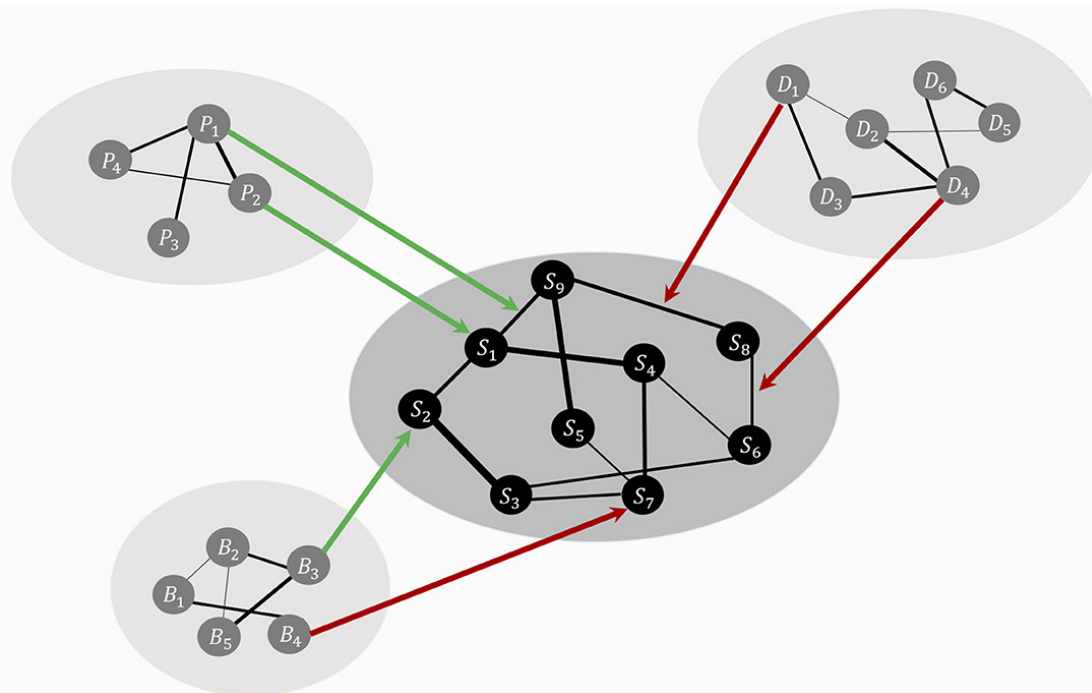
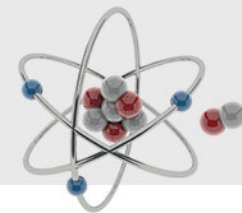
- UPが進むにつれ, 症状のネットワーク構造がどう変容していくか

### ② 「各介入技法の実施状況」のデータを①に加えて解析

- 「各回, 各技法に何分程度割っていたか」のレベルで解析

### ③ 音響班・自然言語班のデータを②に加えて解析

# 研究①～③全体のイメージ

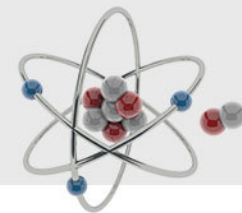


左図のように、治療の作用機序を「見える化」する

「患者が報告した症状」  
「治療技法の実施状況」  
「音響」「自然言語」  
同士の相互作用と、それぞれの内部構造を明らかにする

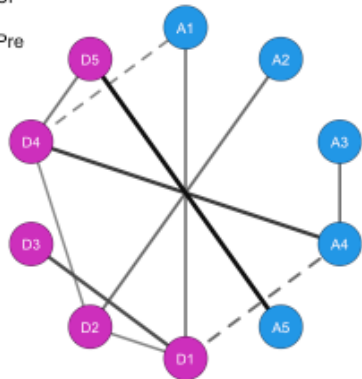
※ Lunansky et al. (2021)  
より引用

# 研究①の結果 (暫定)

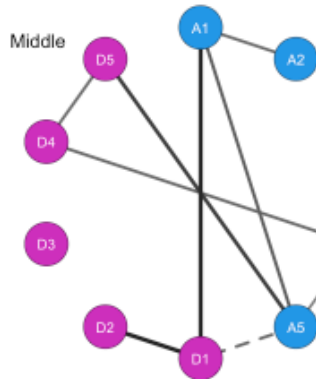


UP

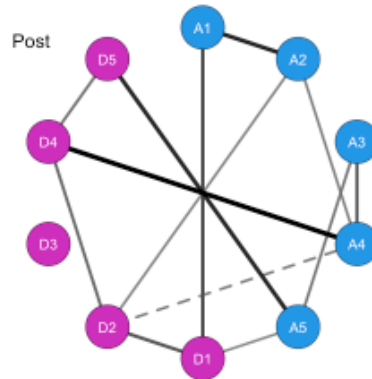
Pre



Middle

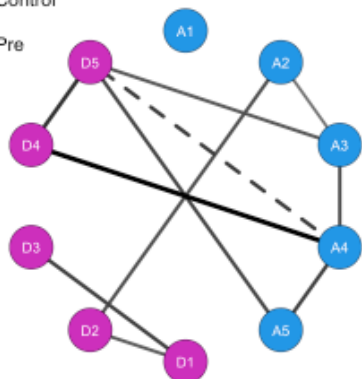


Post

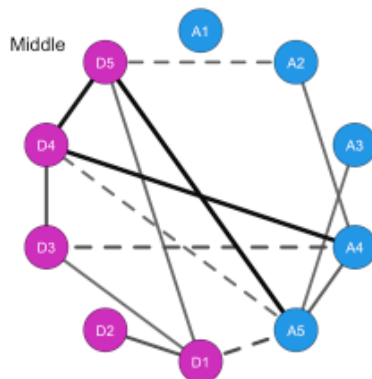


Control

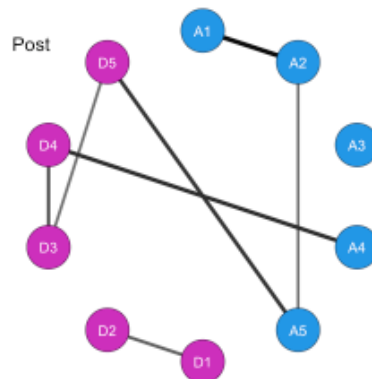
Pre



Middle



Post

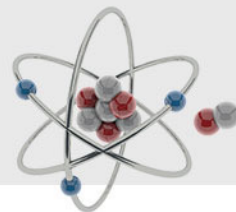


患者99名 (UP群58名, 通常治療群41名) のデータを解析

「UPをやれば症状ネットワークが徐々に疎になる」の予測と反する結果に

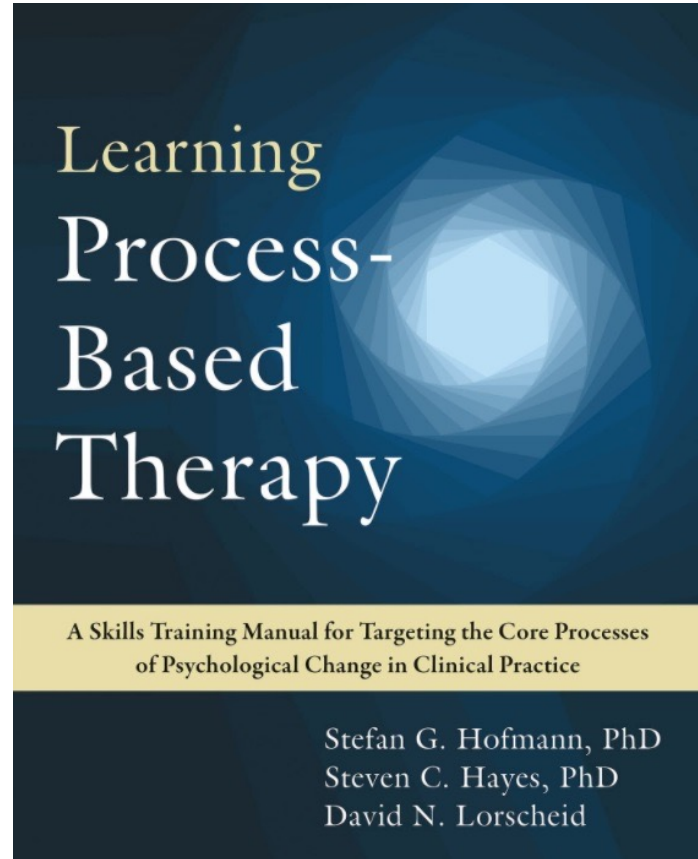
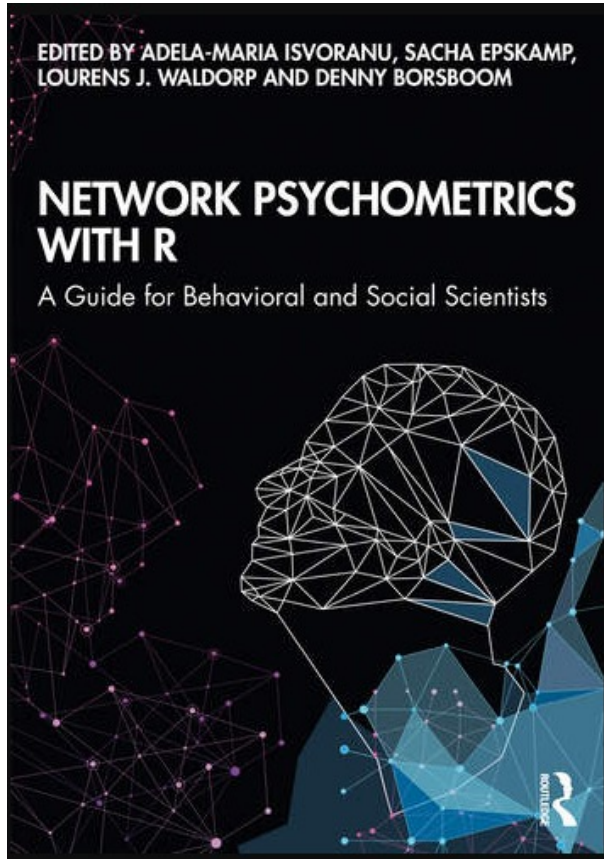
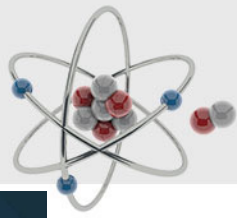
解釈を楽しんでいます！

# ネットワーク班のさらなる野望

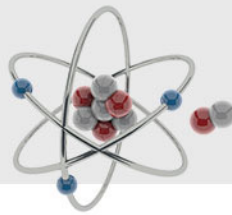


- 日本に「心理ネットワーク研究」という分野を根付かせ、世界でここにしかない知見を示していく
  - 人をどんどん巻き込み、1つのコミュニティとして育てる
- いま稼働中の具体策として・・・
  - 書籍2冊の翻訳
  - 学会でのシンポジウム・チュートリアル
  - Slackと勉強会で、科研費メンバー以外とも交流
  - Process-Based Therapyのアセスメントツール (PBAT) の邦訳

# 翻訳×2が進行中



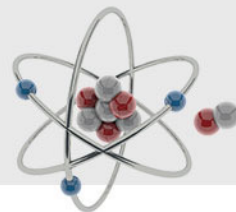
# 補足：Process-Based Therapy



- 「ネットワーク思考」をベースとした，様々なセラピーを統合するためのフレームワーク
  - 「診断名ごとの画一的介入」へのアンチテーゼ
  - 「患者1人1人に固有の複雑系」を捉え，テーラーメイドの介入を実施していく
- 認知行動療法のビッグネーム2名が提唱
  - Stefan HofmannとSteven Hayes
    - 出版社的にも「売れ線」
    - ⇒ 「ネットワークを勉強したい！」の需要増につながる



# ネットワーク班主催での学会発表



## ■ 日本心理学会 (9月) チュートリアル

- 横断データ解析にしばった「心理ネットワークアプローチ入門」

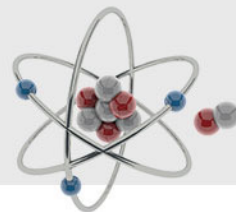
## ■ 日本認知・行動療法学会 (9-10月) シンポ

- 「PBTとは何か？」を我々なりにまとめ、「PBTをまだ知らない指定討論者」からのリフレクションを得る

## ■ 日本認知療法・認知行動療法学会 (11月) 講演・WS

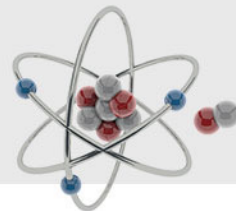
- 講演：UPデータ解析の結果報告
- WS：臨床実践者に向けたPBT入門

# 拡大方針：「3つの部門」構想



- **イケイケ部門：ネットワーク解析で刺激的な知見を示す！**
  - ・ 「海外の大物とコラボしようぜ！」的なもの
- **じっくり部門：PBT普及を中心に、「ネットワーク研究が日本の臨床心理学に広がる土壌」をゆっくり醸成**
  - ・ 北原さんのように、「スポット参戦」の人を増やしたい
- **意外性部門：「臨床以外の心理学者」や「距離の遠そうな学派の臨床心理学者」とコラボし、発展の余地を見出す**
  - ・ まずは学会シンポから？

# 学変Aに向けて



- 「じっくり部門」をうまく織り込めるかが、ネットワーク班長としては鍵だと思っています
  - ・ 「イケイケ部門」を突っ走れる人材はそう多くない
  - ・ 「突っ走ったけど、現場に還元されない」は寂しい
- 「心理以外のネットワーク科学とのコラボ」路線は、追求しなくて良いかも
  - ・ 「ネットワークそのものの可能性」は、よそが追求してくれる
  - ・ 「臨床」「心理」というアイデンティティを大事にした方が、なんだかんだうまくいくのでは？



**Thank you!**

